

緊急通知

(熱中症予防対策)

群ト協発第 79 号
平成30年6月27日

会員各位

一般社団法人群馬県トラック協会
群馬県高速道路交通安全協議会
会長 武井 宏

梅雨期間ではありますが、連日、猛暑日が続くなど各事業者の皆様方には、ドライバーの安全運転、運行管理及び積荷の安全輸送に万全を期されていると思いますが、この度、群馬大学大学院（医学研究科公衆衛生分野）山崎千穂助教が学生と共に会員事業者を視察された際、熱中症対策についてご指導をいただきましたので、取り急ぎ通知いたします。

熱中症は命にかかわりますので、各事業者におかれましては、山崎助教のアドバイスを参考に諸対策をお願いいたします。

山崎助教アドバイス 「ドライバーの熱中症対策」(原文掲載)

熱中症対策としては、点呼時の体調チェック（発熱、下痢、前日の大量の飲酒も含め）、こまめな水分・塩分の補給、カフェインは控える（利尿作用があるため）、長時間の停車時は日陰に停車できる場所を見つける・休憩所を利用する、少し窓を開けておく、サンシェードを設置する、などが挙げられます。また、睡眠不足、前日の飲酒、朝食抜きなども熱中症になりやすくなるため、日常の健康管理も大切です。

熱中症により運転が困難な状態になってしまうと重大な事故にもなりかねません。ドライバーが、一人での作業が多いために、ドライバー自身が「熱中症かな？」と自分の体調変化に気づけること、そして早めに対処することができるよう、熱中症の症状や対処法について知っていることも大事だと思います。

管理者の視点で考えますと、ドライバーにとっては車内が作業場となりますので、待機時も含めた車内の環境管理が必要です。JAF のデータでは、真夏は自家用車ではエアコン停止から約15分で熱中症指数が危険レベルに達することが示されています。作業環境（車内）の適正な温度管理を行う必要があるときは、停車時（待機時）もエアコンを使用せざるを得ないと考えます。エンジンを切った状態でエアコンが使用できれば良いのですが、現状ではエンジンをかけたままでのエアコン使用になると思われます。エアコン使用の基準として、作業場所が熱中症のリスクが存在する暑熱環境であるかどうかを客観的に評価するのに有用とされている WBGT[※]を用いるのはいかがでしょうか。また、作業環境だけでなく不必要な待機をなくす、日中の待機時間をできるだけ短くするなど運行面で改善できる部分があるかどうか、合わせてご検討ください。

群馬県産業保健総合支援センターでは、産業保健に関する専門的な研修や情報提供を行っています。様々な業界の情報を豊富にお持ちですので、一度相談されてもよいかもしれません。

※WBGT(Wet-Bulb Globe Temperature)値＝暑熱環境による熱ストレスの評価を行う暑さ指数で、乾球温度・自然湿球温度・黒球温度から算出する数値